

北海道産タイリクヤチネズミの毛細頭線虫類 *Aonchotheca murissylvatici*浅 川 満 彦^{1)*}

Aonchotheca murissylvatici (Capillariidae: Nematoda)
from red-backed voles (*Myodes rufocanus*) on Hokkaido, Japan

Mitsuhiko ASAKAWA¹⁾
(Accepted 28 November 2014)

緒 論

北海道産タイリクヤチネズミ *Myodes rufocanus* (Sundevall, 1846) の消化管から毛細頭線虫類が初めて見つかったのは、1982 年、野幌森林公園内で捕獲された個体からの *Capillaria* sp. であった[3]。種名保留の理由は、その時に得られた標本が雌のみ(しかも 1 個体)であったからである。その後、小樽市で捕獲された個体から雄虫体が得られ、*Aonchotheca murissylvatici* として同定され、著者学位論文[1] でもその学名で紹介された。しかし、小樽産標本の形態学的記録は未報告で、かつ標本自体も失われていた。そこで、当時描かれた雄尾部描画情報を基にその記録化を試みた。

材料と方法

1983 年 8 月、小樽市オタモイ海岸周辺の草原にて、24 個体のタイリクヤチネズミが捕獲された。蠕虫検査を行ったところ、5 個体の胃から毛細頭線虫類が得られた。線虫類は、当時、迅速に 10%ホルマリン液で固定後、ラクトフェノール液で透徹された。これらについて、光学顕微鏡下で形態観察し、顕微鏡描画装置(オリンパス、BH-2)により形態が描画されていた。

結果と考察

残されていた描画(図 1)は、左に配置された毛細頭線虫類の雄尾の二つ(左端が左から見た側面、その隣が腹側面)と、同・右半分に配置された雌の頭部、その下の尾部、右端の陰門部であった。体部測定値の記録は残されていないが、当該図から交接

刺長は 0.233 mm、鞘には刺を欠き、caudal lateral alae と membranous bursa の二部に別れ、Moravec[5]が定義した *Aonchotheca* 属であった。また、以上の形態と交接刺長と陰門部刺は、Skrjabin et al.[6]が定義した *A. murissylvatici* と一致した。なお、図 1 で描画された雌標本は、小樽産ではなく Asakawa et al. [3] の中で写真画像として掲載された野幌産標本であった。本図描画時は Asakawa et al. [3] が受理された直後で、種名を決定、記載論文(準備中)に掲載する予定であった。小樽産標本でも同様な陰門部の形態を示したので、そのまま同一描画として残していたが、今日まで、未公表のままであった。

北海道産タイリクヤチネズミ(あるいはエゾヤチネズミ) *Myodes rufocanus* (Sundevall, 1846) の消化管から検出された毛細頭線虫類の初記録は、1982 年、野幌森林公園内で捕獲された 175 個体のうち 1 個体(宿主名は "*Clethrionomys rufocanus bedfordiae*") から記録された *Capillaria* sp. であった[3]。この標本は雌 1 虫体であったため、「*C. murissylvatici* に類似するも種小名は保留」とされた[3]。この種は極東ロシア(旧ソ連)含む欧州産の野ネズミ類で頻繁に記録されているもので、ネズミ科に広く寄生し、*Myodes* (= *Clethrionomys*) 属でも知られていた[6]。なお、Moravec[5]により、*Aonchotheca* 属に編入され、*Aonchotheca murissylvatici* という種名で今日に到っている。ユーラシア大陸と北海道とは動物地理学的に密接な関係にあり、この線虫の発見も不自然ではない。Asakawa et al. (1983) が記録した虫体の子宮内には成熟した虫卵が認められ、頭部、陰門部および尾部の写真が掲載されてい

¹⁾ 酪農学園大学獣医学部

School of Veterinary Medicine, Rakuno Gakuen University

* 連絡先: askam@rakuno.ac.jp

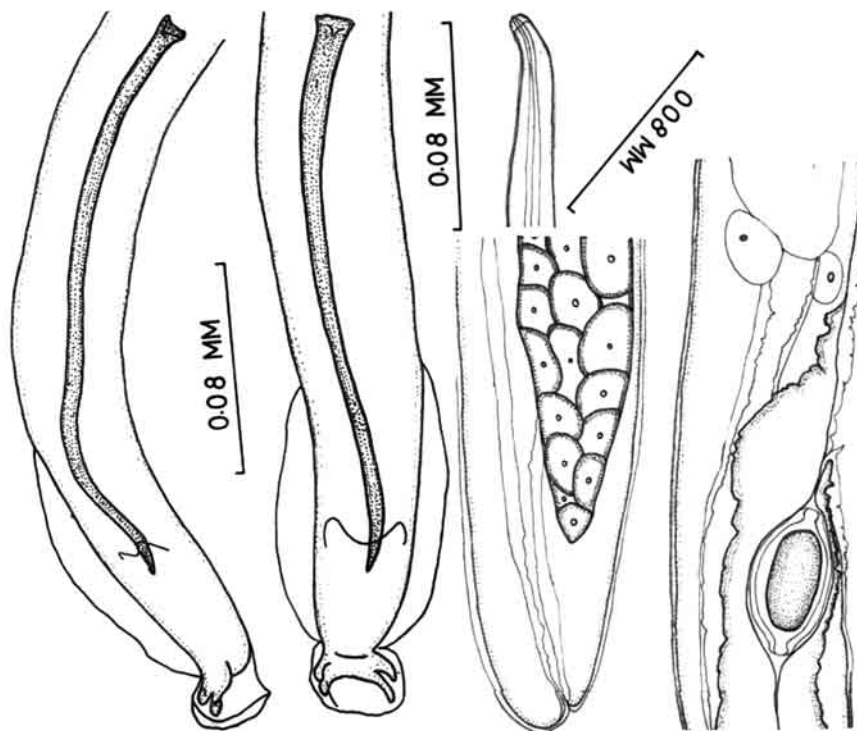


図1 北海道産タイリクヤチネズミ *Myodes rufocanus* から得られた毛細頭線虫類 *Aonchotheca murissylvatici*. 左端：雄尾部左側面，その右隣：同・腹側面（以上，小樽産標本），中央上：雌頭端，その下：同・尾部右側面，右端：同・陰門部右側面（以上，野幌産標本）

た。前述のように，これらは図1右半分でも描画されていた。北海道産タイリクヤチネズミから *A. murissylvatici* が検出されたとする記録は，1990年7月，利尻島で捕獲された3個体のうち1個体からこの線虫種が見出されたとするものであった [2]。この報告でも雄の形態情報が欠如していたが，成熟雄標本を得ていたようで（浅川，未報告），当該種として同定されていた [2]。なお，この翌年実施された同島での継続調査で，ムクゲネズミ（“*Clethrionomys rex* Imaizumi, 1971”）43個体9個体からも *A. murissylvatici* が見出され，この時は雄虫体の雄尾部写真像が掲載されていた [4]。以上の記録を含めた著者の学位論文では [1]，タイリクヤチネズミから *A. murissylvatici* が見つかった地点として，野幌森林公園，利尻島および小樽とされたが，野ネズミ類の捕獲に関しては，採集時期が全てを一括しての1979年4月から1993年3月，これら3捕獲地地点を示すプロットのみで詳細は省略されていた。以上のように，本報告までに，同定の根拠となる北海道産タイリクヤチネズミから得られた *A. murissylvatici* の雄虫体の形態および採集に関する詳細な情報は未公表のままであったことになり，今回，明示をした。

引用文献

1. 浅川満彦. 1995. 日本列島産野ネズミ類に見られる寄生線虫相の生物地理学的研究——特にヘリグモソームム科線虫の由来と変遷に着目して，酪農大紀，自然科学，19：285-379.
2. Asakawa, M., Hasegawa, H., Ohnuma, M., Tatsushima, T. and Ohbayashi, M. 1992. Parasitic nematodes of rodents on the offshore islands of Hokkaido. Jpn. J. Parasitol., 41: 40-41.
3. Asakawa, M., Yokoyama, Y., Fukumoto, S.-I. and Ueda, A. 1983. A study of the internal parasites of *Clethrionomys rufocanus bedfordiae* (Thomas). Jpn. J. Parasitol., 32: 399-411.
4. 浅川満彦・吉行瑞子. 1992. 北海道利尻島産齧歯類に寄生する線虫類，国立科学博物館専報，(25)：105-110.
5. Moravec, F. 1982. Proposal of a new systematic arrangement of nematodes of the family Capillariidae. Folia Parasitol. (Praha), 29: 119-132.
6. Skrjabin, K.I., Orlov, I.V., Shikhobalova, N.P.

and Birron, A. 1970. Trichocephalidae and Capillariidae of animals and man and the diseases caused by them. Israel program for scientific translations, Jerusalem: 598 pp.

要 旨

小樽産タイリクヤチネズミ *Myodes rufocanus* から得られた毛細頭線虫類 *Aonchotheca murissylvatici* の雄尾部形態情報を記録し、その同定と宿主-寄生体情報の根拠を提示した。

Summary

Morphological characteristics of a posterior extremity of the male of *Aonchotheca murissylvatici* (Capillariidae: Nematoda) from *Myodes rufocanus* (Microtidae: Rodentia) collected in Otaru City, Hokaido, Japan, were described in order to present an evidence for the nematological identification and a positive record of the host-parasite relationship between the vole and nematode species.